

2014.4.27 「新しいもの、古いもの」 マルコによる福音書2:18～22

1939年(昭和14)春、私は商業学校(現 那覇商業高校)に入学し家族みんなで祝ったのですが、その喜びも束の間、夏休みには一家の柱であった父が42歳で死んで我が家は深い谷底へ突き落されました。長男と次男(私)は中学生、3人の妹たちは小学生で5人が在学中でした。

父親のいない我が家は貧しさのゆえに食べ物を我慢したり、持ち物を修理して大事に使う習慣が身に付き、自分で工夫して節約して使うことが上手になったものです。母は縫い物が出来るので他人の着物の縫い賃でやっと生活をつないでおりました。私は自分の古い服を修繕するためにそのやり方を母から習ったことがあります。その時母は古い服だから古い布切れをあててしないことがと目立ちすぎると教えられました。

今朝の聖書のみことばはよく似ています。聖書には新しいぶどう酒と古い革袋のたとえもありますが、それらは「新しい信仰と古い心」として考えることが出来ます。ユダヤ教徒や律法学者たちは信仰生活上、絶対に守らなければならないと考えていました。しかし、イエスは結婚式の事を持ち出して花婿と一緒にあれば断食する必要はないと言われています。

花婿とはイエス様のことです。私たちの信仰はイエスを救い主として受け入れ新しい信仰によって生かされているのです。—コリントⅡ5章7節— (城間祥介)